



## 平成24年度 画像保存セミナー

日本写真学会の画像保存研究会は、次世代に伝えるべき記録と価値ある写真画像、またその他の画像記録物の確実な保存を目指し、その知識の普及と技術の確立を目的としております。その主旨に則し、広く情報を発信する場として、1984年より画像保存セミナーを開催し、本年度で29回目を迎えます。

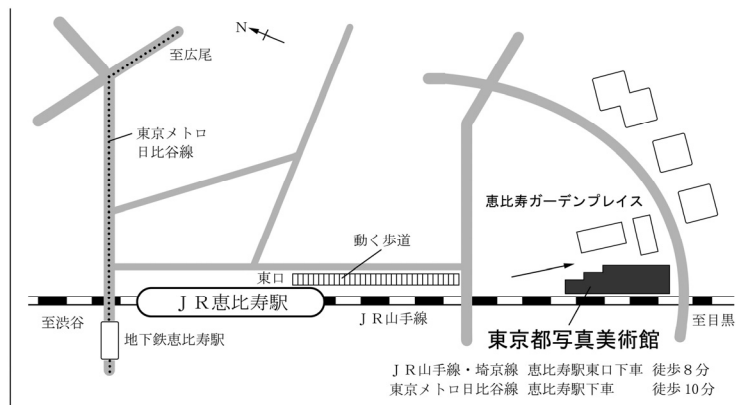
昨年の東日本大震災によって被害を受けた写真プリントの多くに、カビの発生が認められました。また、この震災の影響による電力不足が懸念されるため、資料、文化財、作品等の保管・展示業務を担う博物館や美術館等においても、節電を実施せざるを得ない状況です。これら震災後の対策や取り組みから得られた知見を踏まえて、今後に役立てる、あるいは情報共有できる機会になればと考えています。

また、昨今、アナログからデジタルへの転換が急速に進んでいます。このデジタルデータの利活用や長期保存への課題については、当セミナーにおいても紹介、議論がなされてきました。今回、文化財のデジタル化プロジェクトの中でのインクジェットプリントの関わりとその保存性について、あるいはデジタルデータの記録メディア（半導体メモリ/光ディスク）の長期保存性、マイクロフィルムの活用、さらに一般ユーザーの立場から考察した保存方法の変遷についてなど、多岐にわたる講演を企画しました。

例年通りセミナー終了後、講演者と参加者が自由に情報や意見の交換をして頂ける懇親会を設けております。画像保存に関心のある方、関連分野の多くの方々のご参加を賜りたく、案内申し上げます。

日時：平成24年11月2日（金）  
9時55分～18時00分（9：30受付開始）

場所：東京都写真美術館ホール  
東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内



主催 一般社団法人 日本写真学会  
協賛 日本写真芸術学会  
一般社団法人 文化財保存修復学会  
財団法人 日本博物館協会  
東京都写真美術館

## セミナープログラム

9:30 受付開始 (9:30 までは建物内にお入りになれません)

9:55 開会挨拶 セミナー実行委員長

10:00 講演 1. 津波水損写真：カビ被害への対策

|

東京文化財研究所 名誉研究員 新井英夫

10:40 東日本大震災の津波で海水に浸かった写真資料が、著しいカビ被害を受けている。水溶性・非蒸散性で低毒性の防菌防カビ剤を含有する保存環境除菌剤 JE-120 を利用したときの、写真資料への影響にも留意して、カビ被害の防除効果について検討した結果を示す。

10:45 講演 2. フィルム保存のための保存環境づくりー経費節減のアイデア

|

東京文化財研究所 保存修復科学センター 佐野千絵

11:40 「フィルムの保管は低温・低湿度と分かっているけど達成できない」とお悩みの所有者は多いはず。地形や気候など建物の立地条件、建物内での有利な場所や空間の換気率、上手な除湿剤や吸着剤の使い方など、経費節減アイデアを一緒に考えていきましょう。

11:45 講演 3. マイクロフィルムの保存と現況

|

コダック株式会社

12:25 エンタープライズソリューション本部 ドキュメントイメージング営業部 榎林幸一

80 年を越えて市場に受け入れられてきたマイクロフィルムの保存方法について述べる。また、デジタル情報時代に入って、マイクロフィルムへの「ニーズが減ったので市場から消えるだろう」という観測に対し、新しい市場ニーズ、動向などを紹介する。

12:30 講演 4. 大型インクジェットプリンタを用いた文化財の高精細度複製

|

キヤノン株式会社 Lプリンタ事業部 Lプリンタシステム開発センター 勝間眞

13:10 屏風、襖絵など貴重な文化財では、海外に流出、劣化が心配などの理由で鑑賞機会が制限される場合が多く、もし高度な記録・再現が実現できればその利点は大きい。文化財の高精細な複製に関し、大型インクジェットプリンタの技術を中心に紹介する。

ー 昼食休憩 (60 分) ー

14:10 講演 5. ガラス乾板画像の再生について

|

ー八幡製鐵所保管の記録写真（銀塩ガラス乾板）のデータ化とプリントー

14:50 新日本製鐵株式会社 八幡製鐵所 総務グループ 網岡健司

セイコーエプソン株式会社 商業プリンター企画設計部 岩本康平

日本の重工業の草分けである官営八幡製鐵所の貴重かつ膨大な記録写真を、2009 年から 1 年かけてデジタルデータ化し、プリントを作成することによってその画像の再生を行った。この再生プロジェクトに到った経緯、方法、保存データの活用方法について報告し、画像を再生したインクジェットプリントの保存性についても合わせて述べる。

14:55 講演 6. 半導体不揮発性メモリの超長期保管メモリとしての可能性

|

神奈川大学 理学部 数理・物理学科 小林敏夫

15:50 約半世紀に渡る電子技術（デジタル技術）の進歩は、記憶のあり方に大きな変化をもたらした。現在、我々は利便性の影で、情報の爆発的な増大と記憶の長期保管性の危機に直面している。講演では、半導体不揮発性メモリ技術にこの危機を解決できる可能性があることを示す。

ー 休憩 (15 分) ー

16:05 講演 7. 光ディスク（BD-R）による電子化データの長期保存

|

パイオニア株式会社 研究開発部 谷口昭史

17:00 家庭や業務用途で保存されるデジタルデータ量は年々増加し、近い将来、全ストレージメディアの記録総容量を超えるとも予測されている。光ディスクによる長期保存は、その電力消費の少なからグリーン IT の一環として注目されており BD-R を用いた電子化データの長期保存方法を中心に解説する。

17:05 講演8. 一般ユーザーにおける画像保存に関する考察

| アマチュア写真家・株式会社ニコン 映像カンパニー 開発本部 山野泰照

18:00 家庭において増え続ける画像や映像の資産を、どのように残すかというテーマは、その形態や保存耐性が多様であるがゆえに、難しく切実な問題となりつつある。今回は、残す目的を明確にしながらか保存の方法を検討してきた、講演者の事例を紹介する。

18:00 閉会挨拶 日本写真学会副会長

\*各講演時間には質疑・応答の時間を含まず。なお、講演者および他の参加者の迷惑となるだけでなく、著作権の問題を含まずので主催者以外の写真・ビデオの撮影、録音はご遠慮願います。

\*閉会后、講演者と参加者の自由な情報交換の場として懇親会（下記参照）を行います。奮ってご参加ください。

---

## 参加申し込みについて

### セミナー参加費（講演要旨集代を含む）

日本写真学会および協賛学協会々員 …………… 6,000 円

非会員 …………… 8,000 円

学 生 …………… 2,000 円

（日本写真学会の賛助会員所属で非個人会員の方の取り扱いに関しては、賛助会費の口数に応じた人数枠に対して申し込み順に会員扱いとなります。枠を超えた分は非会員扱いとなります。会員枠が残っているかどうかにつきましては、ご面倒でも事務局にお問い合わせ下さい。）

定 員 180 名（定員になり次第締切りますのでお早めにお申し込み下さい）

懇親会 講演者と参加者の自由な討論の場、および参加者相互の情報交換や交流を深める場として、セミナー終了後に下記のとおり懇親会を開きます。参加ご希望の方は郵便振替用紙の該当欄にその旨ご記入の上、会費をお送り下さい。

時間：当日 18 時 15 分より

場所：恵比寿ガーデンプレイス グラススクエア B1 音音

会費：3,000 円

申込締切 平成 24 年 10 月 15 日（月）

申込方法 このプログラムに同封されている郵便振替用紙に、必要事項をご記入の上、セミナー参加費をお振り込み下さい。ご入金を確認した後、参加証をお送り致します。また、懇親会に参加ご希望の方は会費も合わせお振り込み下さい。

（郵便局備え付けの振替用紙でもお申し込み頂けます。その際は参加費区分、懇親会参加の有無を通信欄にお書き下さい）

日本写真学会ホームページ <http://www.spstj.org/> から参加申込ができます。トップページの「最新イベント情報」、あるいは左肩「イベント」よりお入り下さい。その場合でも、参加費のお支払は、上記のように事前に郵便振込みでお願い致します。

なお、一旦振り込まれた参加費の返却は致しかねますので、参加のご都合が悪くなった場合には代理の方の参加等でご対処をお願い申し上げます。

送り先 〒164-8678 東京都中野区本町 2-9-5 東京工芸大学内

（社）日本写真学会

Tel. 03-3373-0724

郵便振替口座番号：00130-6-72818

Fax. 03-3299-5887

## 日本写真学会にご入会下さい

この機会に、会員でない皆様には当学会に入会されることをおすすめします。  
セミナー当日、受付に入会申込書がありますので、ご記入の上お申し込み下さい。

年会費： 正会員 8,500 円 学生 3,000 円

一般社団法人 日本写真学会 事務局  
〒164-8678 東京都中野区本町 2-9-5  
東京工芸大学内

Tel. 03-3373-0724 Fax. 03-3299-5887

URL <http://www.spstj.org>

このセミナーは、下記の組織で企画されました。

一般社団法人 日本写真学会

会 長：小林裕幸 副会長：久下謙一 豊田堅二

画像保存セミナー実行委員会

委員長： 山口孝子（東京都写真美術館）

委 員： 上田耕一郎（東京工芸大学）

大西弘幸（セイコーエプソン）

河野純一（元コニカミノルタテクノロジーセンター）

杉本和俊（コダック）

吉田 成（東京工芸大学）

大関勝久（富士フイルム）

大林賢太郎（京都造形芸術大学）

小林裕幸（千葉大学）

高橋則英（日本大学）